学校番号	T0204

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新版世界史Ａ 新訂版　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１世紀前、いや 10 年前と比べても世界は大きく変化しています。自分が生きている現代の世界を理解するためには、歴史を知ることが不可欠です。「なぜ今こんなことが起こるのか？」そんな疑問の答えを探るためにも世界史の学習に取り組んでみましょう。

2　学習の到達目標

・世界史の学習を通じて国際情勢の背景を理解する。
・人物やできごとなどの歴史知識を身につけ、それぞれの時代の特徴を理解する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史に関する関心と課題意識をもち、国際社会に生きる者として、国際理解を進める態度を養う。	世界史の学習において文化の多様性やその国の特質を多面的に理解したうえで、公正に判断し、その歴史的過程を適切に表現している。	近現代史の歴史に関する諸資料から正確な情報を選択する力をもっている。	近現代史に関する基本的な知識を、地理的条件や世界と日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	ユーラシアの諸文明と交流	・文明のはじまり ・東アジア世界 ・オリエント・地中海世界 ・ヨーロッパ世界	○	○	○	○	a:ユーラシアに形成された諸文明の特質について、関心を深め、意欲的に追求しようとしている。 b: ユーラシアの諸文明と交流の特質を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。 c:必要な諸資料を収集し、情報の取捨選択をしている。 d: ユーラシアの諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート
	一体化に向かう世界と日本	・ルネサンスと宗教改革 ・大航海時代 ・絶対王政の時代 ・ヨーロッパ諸国の展開 ・主権国家の誕生	○	○	○	○ ○	a:主権国家体制の成立と地球規模での交流の始まりに対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。 b: 主権国家体制の成立と地球規模での交流の始まりを日本と関連付けて、多面的に考え、その過程や結果を表現している。 c:その国のその時代の文字史料、絵画、地図などの資料から有用な情報を読み取っている。 d: 主権国家体制の成立と地球規模での交流の始まりの歴史的事象を日本と関連付けて、理解し、知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

後期	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動	・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命 ・ナポレオンとウィーン体制 ・19 世紀後半のヨーロッパ ・19 世紀のアメリカ ・東アジアの変動	 ○ ○ 	 ○ 	 ○ 	○ ○ ○	a:ヨーロッパ地域を中心とする世界の一体化の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。 b: ヨーロッパ地域の特質と繁栄を、多面的に考え、その過程や結果を表現している。 c: ヨーロッパ地域を中心とする世界の一体化に関する資料を収集し、有用な情報を読み取っている。 d: ヨーロッパ地域を中心とする世界の一体化の歴史的事象を日本と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート
	現代世界のあゆみ	・帝国主義と世界分割 ・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・各地の民族運動 ・世界恐慌とファシズム ・第二次世界大戦	 ○ ○ 	 ○ ○ 	○ ○ 	 ○ ○	A: 二度の世界大戦と世界の枠組みの変化に対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。 b: 二度の世界大戦と世界の枠組みの変化を多面的に考え、その過程や結果を表現している。 c:その国のその時代の文字史料、絵画、写真などの資料から有用な情報を読み取り、活用している。 d:二度の世界大戦と世界の枠組みの変化を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。